

建設業

しんぶん

Feb.2022

2

No. 535



特集

「建設キャリアアップシステム」 普及にむけた取り組み

人々の暮らしを創っています

1 選択可能なのは当受付センターのみ

経験豊富な講師陣による**対面講習**
OR わかりやすい**映像講習**

2 ご自宅・職場のお近くで受講できます

講習会場：全国270都市 開催数：1000回

3 信頼の講習内容

100万人の受講実績

講習受付センター

TEL.03-5408-1889
FAX.03-5408-1882
URL. <http://www.fcip-ko.jp/>



※QRコードからのアクセスは一部できない場合があります。

監理技術者講習

国土交通大臣登録講習実施機関

一般財団法人 **建設業振興基金**

東京都港区虎ノ門4丁目2番12号 虎ノ門4丁目MTビル2号館(登録番号2)

実施協力

株式会社 **建設産業振興センター**

編集・発行

一般財団法人 建設業振興基金 〒105-0001
東京都港区虎ノ門4-2-12虎ノ門4丁目MTビル2号館
TEL : 03-5473-4584 FAX : 03-5473-1594
URL : <https://www.kensetsu-kikin.or.jp/>

CONTENTS

特集

「建設キャリアアップシステム」普及にむけた取り組み

02

- 1. CCUS認定アドバイザーの活動が本格化しています
- 2. 「建設キャリアアップシステム活用推奨モデル工事(全国建設業協会)」における情報交換会や現場見学会を実施しています
- 3. CCUSの登録から運用までの流れについて

FOCUS

工業高校紹介 熊本県立玉名工業高等学校

08

- 座談会：山下 耕史 先生 手嶋 栄二 先生 谷川 卓史 先生

PRESCRIPTION

日本経済の動向 10

- 行政のデジタル化は何をもたらすか

建設経済の動向 11

- 技能者の処遇改善がいよいよ本格化

連載 魅力ある建設業界へ 若年者の採用と定着率向上に向けて 12

- 【第8回】
業務改善～労働時間の削減～

連載 かわいい土木【第42回】 14

- 奥大井湖上駅
／静岡県榛原郡

令和3年度 連携団体職員合同研修会の開催 16

いつでもチェック!!



建設産業の今を伝え
未来を考える

「建設業しんこう」は
Webでも
ご覧いただけます。



しんこうWeb

検索

<https://www.shinko-web.jp/>



メルマガ登録は
コチラから!



「建設業しんこう」に関するご意見・ご要望
TEL : 03-5473-4584 (企画広報部)
MAIL : kikaku@kensetsu-kikin.or.jp

印刷：日経印刷株式会社
©本誌記事の無断転載を固く禁じます。



建設キャリア アップシステム 普及にむけた取り組み

一般財団法人 建設業振興基金

2019年4月に建設キャリアアップシステム(以下、CCUS)の本運用が開始されてから本年4月で3年を迎えます。

今回、2021年4月より運用を開始したCCUS認定アドバイザー制度、「建設キャリアアップシステム活用推奨モデル工事」実施企業の声、CCUSの登録から運用までの流れ等、CCUSの普及にむけた様々な取り組みをご紹介します。

1



CCUS認定アドバイザーの活動が本格化しています

「CCUS認定アドバイザー制度」はCCUSに関する専門的知識を講習動画やCCUSの実技によって修得した外部人材にCCUS活用支援の場でご活躍いただき、より一層のCCUS登録及び現場運用の普及を図るため、2021年4月より運用を開始しています。

CCUS認定アドバイザー(以下、アドバイザー)は、システム利用者の登録、現場運用が円滑に行われるよう指導及び助言等を行い得る者として、その称号で業務を行うことができると建設業振興基金が認めたものであり、これまでに4回の公募(一般公募3回、行政書士会対象1回)が行われ、2021年12月末現在、174名の方が認定を受けて活躍しています。一般公募には、受講者枠に対し4~5倍の応募があり、狭き門となっていますが、2022年は一般、行政書士各1回の公募を行い、それをもって公募を終了予定としています。

現在、アドバイザーの方々の内訳は、建設業者の方が81名、行政書士の方が57名、団体の方が19名、地方整備局等の方が10名、その他が7名となっています。また、活動拠点としては、東京都が43名、大阪府が20名、神奈川県が6名、埼玉、愛知、広島、香川及び福岡の各県が5名となっており、45都道府県においてアドバイザーの皆様にご活躍いただいております。

また、アドバイザーは、CCUSのホームページの「説明会・サポート」のカテゴリーに連絡先等の一覧を掲示しています。各アドバイザーの皆様には、本来業務の傍らアドバイザーとして活動して頂いておりますので、そのことをご理解いただき、ご相談等していただければ幸いです。

CCUS認定アドバイザーインタビュー

「コールセンターになるつもりで
CCUS認定アドバイザーになりました」

CLA川崎行政書士事務所 所長 川崎 雅彦 様
 スタッフ 川崎 綾子 様
 聞き手 (一財)建設業振興基金
 建設キャリアアップシステム事業本部
 普及促進部長 川浪 信吾

2021年4月に誕生したCCUS認定アドバイザーですが、多くのユーザーの相談に対応いただいております。そのなかから、埼玉県を中心にご活躍されている、さいたま市のCLA川崎行政書士事務所 所長の行政書士 川崎雅彦様とスタッフの川崎綾子様にお話を伺いました。

基金…今回、CCUS認定アドバイザーに応募されたきっかけを教えてください。

川崎(雅)様…当事務所は、建設業関連業務を中心に業務を行っており、CCUSが稼働し始めた当初より、クライアントの登録のお手伝いをさせて頂

いていました。2020年10月にCCUSのコールセンターが電話からメール主体に切り替わり、戸惑っている方も少なからずいらっしゃいました。何か役立てることはないかと思っていたところ、CCUSの専門知識を習得できるアドバイザーの募集を知り、これだと思い応募しました。しかし、第1回、第2回ともあえなく落選してしまいました。

基金…第1回、第2回とも募集定員の5倍を上回る応募があり、皆さんのお気持ちに応えることができず申し訳ありませんでした。

川崎(雅)様…その後、行政書士を対象とするアドバイザーの募集が行われたので、真っ先に立候補して埼玉県行政書士会から応募させていただきました。

基金…CCUSのユーザーの方からの声をお聞かせいただけませんか？

川崎(雅)様…「民間工事でもCCUSは必要なのか？」との疑問が多いので、CCUSの趣旨や目的を丁寧に伝えていま

す。また、2次以下の下請けの方にはパソコンが使えない方も多く、登録や運用で困っているのが実情です。現場の施工体制に不安な面をお持ちだった元請の方からは、CCUSが導入され、実際は一人親方や別の企業所属であ

ったことなどが判明し、施工体制管理の適正化が図られ安心できたなどの声もあります。
川崎(綾)様…登録手続きでは、パソコン操作、書類のデータ化ができずに躓き、手続きが途中で止まってしまっている方や登録できたけれど内容が誤っている方が多くいらっしゃいました。また、小規模建設に携わる事業者の方には、登録したいという気持ちはお持ちだけれど、パソコンで困っていらっしゃる方が多いことも改めてわかりました。

基金…アドバイザーとしての抱負・活動方針をお聞かせください。

川崎(雅)様…登録審査が滞っている場合、申請者はどこに問題があるのか分からないという方が多く、FAQに答えがあっても見つけられないということもあります。とにかく、まず、分からないところを電話で気軽に聞ける窓口になっ

ていきたいと思っています。また、必要があれば何って直接お手伝いをさせて頂きたいと思っています。

基金…聞きにくいことですが、相談は無料ですか？どこから、料金が発生するのでしょうか？

川崎(雅)様…振興基金の方では決めて頂けなかったので(笑)、電話による相談はもとより直接出向いての相談に対応する場合でも、CCUSの普及への貢献として無料で行おうと思っています。相談ではなく、具体的な申請の代行の依頼を受けた場合については、行政書士の仕事として所定の料金でお受けさせて頂いております。

基金…一般的な相談は無料ですか！

川崎(雅)様…CCUSのホームページのFAQに出ていない疑問についても、可能な限り対応して参りますので、遠慮なく電話を頂ければと思います。

基金…最後に、CCUSへの要望やご意見を伺わせてください。

川崎(雅)様…第一は、技能者の登録を早くしてほしいです。技能者の方は、次の現場がCCUSの現場であったりすると、工事着手までに登録したいという方も少なくないので、宜しくお願いします。次に、今後、登録変更や現場運用での問い合わせが多くなると思われるので、その対応や情報提供をお願いします。

川崎(綾)様…CCUSは職人さんの転職の際の助けにもなるものなので、パソコンがなくてもスマホで簡単に変更申請が可能なアプリができれば良いと思います。

取材を終えて、電話での相談を希望するCCUSユーザーに接し、自分が相談窓口になるつもりでアドバイザーに応募したとのお話をお聞きした時には、本当に頭が下がる思いでした。CCUSが、その趣旨に賛同された多くの方々のお気持ちに支えられていることに改めて気付かされました。皆様の気持ちに応えられますよう引き続き、利用者の方へのサービス向上に努めて参ります。





「建設キャリアアップシステム活用推奨 モデル工事(全国建設業協会)」における 情報交換会や現場見学会を実施しています

(一財)建設業振興基金では、今年度実施されている「全国建設業協会 建設キャリアアップシステム活用推奨モデル工事」の実施企業様に向けて、説明会の開催や現場支援のサポートを随時行っています。実際にCCUSをご活用いただく中で、現場での課題や改善点など、モデル工事実施企業である静岡県の市川土木(株)様にお話を伺いました。

今回のモデル工事の現場について、工事の概要を教えてください。



▲【由比地区地すべり予想図】(国土交通省富士砂防事務所提供)



▲交通の要衝(左から)JR東海道本線、国道1号、東名高速道路

本工事は、大規模な地すべりを抑止するため深礎杭(直径5m、深さ80m)を築造する工事です。本地区は歌川広重の東海道五拾三次の一つ「由井 薩埵嶺」に描かれているとおり急峻な斜面で、直下には日本の大動脈である国道1号、東名高速道路、JR東海道本線などの交通の要衝となっており、大変重要な工事であると考えています。



▲歌川広重 東海道五拾三次「由井 薩埵嶺」(出典:東京富士美術館)

『由井 薩埵嶺』に描かれている薩埵峠(さつたとうげ)は、富士の名所で、江戸時代には、この絶景が名勝地の一つとして人気があったようです。この素晴らしい景色をひと目見ようと断崖から覗く旅人の姿が小さく描かれており、富士山の雄大さや、薩埵峠の荒々しい山肌と駿河湾の穏やかな海の様子とのコントラストを一層引き立てています。

CCUSへの登録は、自社と協力会社、それぞれに行っていたかと思いますが、登録はスムーズに進みましたでしょうか？

今回初めてCCUSを利用するので、使い方を学びながらの作業となり、うまくいかない部分が多々ありました。システムへの施工体制登録は、協力業者とのやり取り(システム上での承認の依頼)が必要ですが、元請企業側で一括して施工体制登録ができれば、と思いました。PC作業に慣れていない業者も多く、登録まで少し時間がかかりました。

カードリーダーの調達などは、どのように行いましたか？

ホームページを参考に、建レコ専用の4機種よりWindows対応のカードリーダーを選定しました。毎朝使用するものなので、顔認証や体温を測定記録できる機種があるといいなと思いました。



2021年11月25日(木)には、市川土木(株)様をはじめ、今回のモデル工事に参加されている協力会社様や発注者の皆様など、会場と遠隔地での参加者をオンラインで繋ぎ、現場での運用状況に関する情報交換などを実施しました。また、後半では、実際の操作画面のデモンストレーションを行い、日頃の運用における疑問点などにもお答えしました。

◀情報交換会の様子

本財団からのサポートをご活用いただいたご感想や改善点など、お聞かせ願います。

足を運んで面会でサポートして頂けることは大変ありがたく分かり易いと思いましたが、ただ、多数の参加の場合、個別の案件を聞きづらいとの意見もありました。カスタマーサポートのような、オンラインで個別対応して頂けるサービスがあるとありがたいと思います。

御社では、若い世代の現場代理人がCCUSを活用しながら頑張っていると伺いました。今回のモデル工場の現場以外でも、今後活用を進めていくにあたって、若い世代からの抱負など、お聞かせいただけますと幸いです。

CCUSは、就業履歴や保有資格が見える化し、適正な処遇改善につながる重要なシステムだと考えています。まだまだ理解不足な点も多々ありますが、私たち若手職員が中心となって社内での水平展開、協力業者のさらなる登録の推進、活用サポートを行っていかれたらと思っています。今後ともご指導をお願いいたします。



「由比地すべり対策事業」の現場では若い世代の現場代理人も奮闘中です

市川土木(株)様、ご協力いただきありがとうございました。

本財団では、CCUSモデル工事等の実施に向けたサポートを随時行っており、その他、実技習得型説明会や登録会なども開催しています。現場運用に関するご相談や各種説明会・登録会のお申込みにつきましては、建設キャリアアップシステム事業本部普及促進部まで、ご連絡ください。

CCUSモデル工事のサポートや実技習得型説明会、登録会の実施に関するお問合せ先

(一財)建設業振興基金
建設キャリアアップシステム事業本部
普及促進部

メール

ccus01@kensetsu-kikin.or.jp



CCUSの登録から運用までの流れについて

CCUSをお使いになるには、元請事業者、下請事業者ともに、まずは事業者登録の申請手続きが必要です。技能者カードがすぐに必要だから、という理由で技能者登録から申請するケースも見受けられますが、所属事業者と技能者の関連付けで二度手間をおかけすることとなるため、「事業者登録→事業者ID取得→技能者登録」の流れでご登録いただくことをおすすめしています。ここでは、CCUSの登録から運用までの流れを簡単にご説明します。



1. 事業者登録

CCUSを活用するには、元請・下請事業者ともに、事業者登録が必要です。

現在、登録申請の手続きは、「インターネット申請」又は「認定登録機関（登録のできる窓口）※での申請」のいずれかの方法で行っていただくことになっており、まずは、事業者に関する証明書類を準備するところからスタートします。どんな書類を集めたらいいのかわからないという場合には、「証明書類見本一覧（事業者編）」をホームページに掲載していますので、ご参照ください。インターネットでの申請の場合は、証明書類を電子化（JPGファイルに変換）する作業を行い、ガイダンスに従って登録していきます。また、窓口での申請の場合は、電話での予約が必要となりますので、事前に窓口へのお問合せをお願いします。その他、元請や上位の下請事業者、行政書士などによる代行申請という方法も可能となっています。

※認定登録機関は、紙による申請が可能な窓口で、2022年1月現在、全国で216箇所あります。

ご利用の前に、各機関の受付時間や予約の要否など、CCUSホームページでご確認をお願いします。



2. 技能者登録

事業者登録を申請し、事業者IDが取得できた後に行います。

技能者ごとに登録する情報が多いため、手続きが煩雑というイメージをお持ちの方も多いようですが、沢山の資格をお持ちだということは、それだけ技能者の皆様が建設業に貢献してきた証しでもあります。現場の仕事で忙しい技能者の負担を軽減するため、事業者登録をしている建設事業者が技能者に代わって登録を行っているケースが多く、現在、技能者登録の約7割が代行申請となっています。インターネットから代行申請する場合には、PCのデスクトップに技能者ごとのフォルダを作って添付書類のJPGデータを整理しておくことで効率的に作業ができます。その他、登録に関するノウハウは、CCUSサテライト説明会などでもご説明しています。



3. 現場運用

適正な就業履歴の蓄積のためには、事前準備も重要です。

CCUSを現場で活用することが決まったら、元請事業者は、現場にカードリーダーを設置するなど、就業履歴を蓄積するための準備を行います。CCUSと連携している民間システムを活用してCCUSにデータ連携を行う場合には、元請・下請ともに、民間システムへのCCUS事業者ID・技能者ID等の登録が必要となります。また、工事の契約情報や施工体制情報など、現場ごとの情報登録が必要ですが、ここでも元請・下請ともに登録や承認の作業を行います。この段階できちんと正しい情報を登録しておくことで、はじめて適正な就業履歴の蓄積が可能となります。今年度は主に、CCUSモデル工事などを対象とした現場運用のサポートや各種説明会を充実させており、CCUSを活用する現場が徐々に広がっています。

登録や現場運用にあたっては、CCUSホームページやFAQをご活用ください



2021年9月に、CCUSホームページをリニューアルいたしました。各項目を分かりやすく表示していますので、ぜひご活用ください。また、「FAQ(よくあるご質問)」では、これまで皆様から頂戴したご質問の回答を公開しておりますので、キーワードを検索するなどして、こちらもご活用ください。



<https://www.ccus.jp/>

ホームページ右下のこのマークをクリックするとFAQ画面が表示されます。

FAQの中から、「よくあるご質問」を紹介します

Q (No2449)

事業者のインターネット申請を行いたいため、申請の流れや準備書類について教えてください。

A まずは、事業者の「インターネット申請ガイドンス」をご覧ください。
申請時に必要な添付書類について詳細を知りたい場合は、証明書類見本一覧をご覧ください。
また、社会保険適用除外理由や所属団体等のコード番号については、登録申請書コード表をご覧ください。



インターネット申請ガイドンス



証明書類見本一覧(事業者)



登録申請書コード表

Q (No2448)

技能者のインターネット申請を行いたいため、申請の流れや準備書類について教えてください。

A まずは、技能者の「インターネット申請ガイドンス」をご覧ください。
申請時に必要な添付書類について詳細を知りたい場合は、証明書類見本一覧をご覧ください。
また、技能職種や保有資格等のコード番号については、登録申請書コード表をご覧ください。



インターネット申請ガイドンス



証明書類見本一覧(技能者)



登録申請書コード表

この他、【FAQ早見表】6割以上のご質問への回答をCCUSホームページの最新情報に公開していますので、ぜひご活用ください。

＜アクセス数の多いご質問の例＞

- ・(No679) 申請してカード発行までどのくらいかかりますか
- ・(No681) 申請から事業者ID発行までどのくらいかかりますか
- ・(No727) 技能者の本人確認書類は何を提出すればいいですか(日本国籍の場合)
- ・(No723) 事業者確認書類は何を添付すればいいですか

FOCUS

第78回

土木の魅力発信に 教員歴の長短は関係なし! 同じ熱意をもち 取り組むことが生徒のために

「工業人たる前に良き人間たれ」をスローガンに掲げ、熊本県北の工業教育の中核を担う熊本県立玉名工業高等学校。地元との信頼を深めながら、昨年度は約7割の生徒を建設業界に送り出しました。今回は「県下全体で土木科を盛り上げていきたい」という、土木科主任・手嶋栄二先生、進路指導主事・山下耕史先生、実習教師・谷川卓史先生に座談会形式で語り合っていました。



熊本県立玉名工業高等学校 土木科

山下 耕史 先生 手嶋 栄二 先生 谷川 卓史 先生

目指しているのは 「生徒を真ん中に置いた教育」

—教育の質を向上させるために、どのようなことに取り組んでいるのですか？

手嶋先生：ベテランの先生たちが培ってこられた教育スキルや知識を、体系的に吸収できるようなスキームづくりに取り組んでいます。具体的には、教科書には載っていないような経験値からくる知識などのマニュアル化を進めています。

谷川先生：特に実習では、経験則による知識が必要な場面が多いですからね。例えば「なにかを混ぜる」といっても、気温や湿度に影響されるので完全に数値化できない。私は先輩から「モルタルの固さは“1日たったおじや”くらい」と教わりましたが、そういう感覚的なことの継承ができ

たらいいですね。

手嶋先生：教える力や知識量はどうしても経験に左右されるけど、それを理由に生徒の学びの質を下げてはいけないと思うんです。熊本県下では、中堅層の上の世代は定年を間近に控えた先輩方。中間の世代がないこともあり、スキルの継承は急務ですよ。

山下先生：一方で、今の生徒の傾向も踏まえてアレンジすることも大切です。最近の子たちは以前よりもかみ砕いた説明が必要な場合が多いと感じます。例えば、単位の“メガ”を説明するときには、生徒たちに馴染みがあるファーストフード店のメニューを引き合いに出すこともあります(笑)。

手嶋先生：それぞれの先生の引き出しや経験から、「マニュアルをもとに、どうアプ

ローチしようか」と工夫してくださる部分ですが、教員の成長につながるし個性ですよ。教師の役割は、生徒に土木の魅力を発信していくことです。これはキャリアの長さにかかわらずできること。みんなが同じ熱意をもって取り組んでいける環境にしていきたいですね!

谷川先生：そういう意味では、玉工では手嶋先生が先頭に立って、しっかり旗振りしてくれているので、みんなが同じ方向を見て同じ想いで取り組むことができます。

山下先生：得意な部分を見極めてくれて、役割分担が的確ですね。「ここは自分が中心だけど、こっちではバックアップ的な役割になっている」など、みんなが少しずつ頑張らないといけない(笑)。手嶋先生も中心になったり裏方になったり、バランスいいですよ。



測量実習



材料実習



土質実習

3年生の「測量実習」「材料実習」「土質実習」の様子。各班とも指示されるのを待つのではなく、「実習中の今、何をすべきなのか」を自分で考えながら積極的に動いている姿が印象的。自主的な学びを育む環境づくりが、2級土木施工管理技士補の学科試験合格率2年連続85%という玉工の実績にも通じている

谷川先生:「これはこの先生に任せておけば大丈夫!」みたいな信頼感が増しました。

手嶋先生:最近、生徒たちと良好な関係を築けるようになったのも、こうした教員間の信頼関係が伝わったからかなと思います。生徒を真ん中に置いた教育を理想に取り組んできたことが、少しずつ実ってきているなど感じています。



「玉工だけでなく、県下全体の土木科が向上していくように働きかけたい」と意気込む3人。2級土木施工管理技士学科試験の指導マニュアルを他校土木科と共有するなど、切磋琢磨しながら業界を盛り上げている

協会・企業と協力した 体験プログラムを開発したい

—業界就職率が高いですが、進路指導の根幹にはどのような想いがありますか?

山下先生:社会に出たときに、単なる人手としての「人在」ではなく、所属する組織にとって欠かせない存在である「人財」として活躍できる人に成長してほしいなと

玉工手帳



PLAN (計画)・DO (実行)・SEE (改善) を見える化できる「玉工手帳」。卒業生からは、「社会人になって玉工手帳で取り組んでいたメモを取る大切さを実感した」との声も

7つの習慣



昨今のコロナ禍の影響で、生徒が機会やきっかけを失うことなく目指す成長を遂げられるよう、山下先生が整理した「7つの習慣」

思っています。それを実現するために導入したのが、「玉工手帳」と「7つの習慣」です。勉強、部活動に加えて、資格取得や地域貢献などを同時に段取りよく進める力を養うために手帳を活用し、自身が成長し続けるための習慣を身につけてもらいたいですね。

手嶋先生:手帳を活用できれば、頑張りポイントやへこみポイントが見える化できますよね。

谷川先生:教師にとっても、「工業人たる前に良き人間たれ」という大きなゴールに対して、山下先生が7つの習慣を整理してくださいと、ひとつ柱を得られましたよ。

手嶋先生:教育現場は狭く限られた世界だから、実社会とかけ離れた部分が生じかねない。でも、7つの習慣や手帳の活用は、そうならないよう正すツールになったと思います。

山下先生:実社会とのつながりという意味では、地元の建設業協会や企業の方にも理解をいただいて、現場見学会やインターンシップ、課題研究でも協力いただけているのが心強い!

私が担当している校内整備の授業では、道路舗装会社に協力を得て校内駐車

場の白線引きや砂利地の舗装をしています。本格的な重機を駆使しながら、暗黙の了解で手際よく作業を進めていく職人の姿をみて、生徒たちの業界関心度も急上昇しています。

谷川先生:ほんの数日で、砂利だったところがアスファルトになっていくのが分かりやすい。完成までを見られることに、ものすごく意義を感じます。だから今、企業の方には「取りかかりから完成までを見せられる体験プログラムを一緒につくりませんか」と提案しているんですよ。

手嶋先生:学習指導要領との兼ね合いもあって、簡単ではありませんが(笑)。協会や企業の方に寄り添っていただき、玉名の建設業界全体で子どもたちを「人財」に育てようと取り組めるのはありがたいことです。今後もさらに強化していきたいですね。

先生から
みんなへ
メッセージ



熊本県立玉名工業高等学校

〒869-0295 熊本県玉名市岱明町下前原368

WEB <https://sh.higo.ed.jp/tamanath/>

期待される住民サービスの向上と政策の効率性改善

行政のデジタル化は何をもたらすか

みずほリサーチ&テクノロジーズ 調査部 次長 山本 康雄

デジタル庁の設置を決めた菅前首相に続き、岸田首相もデジタル臨時行政調査会とデジタル田園都市国家構想実現会議を立ち上げ、行政のデジタル化を強力に推進する方針を示した。今回は、政府が行政のデジタル化を推進する意図はどこにあるのか、それにより期待される効果はどのようなものかについて解説する。

岸田政権も行政のデジタル化を重点方針に

2021年9月1日、行政のデジタル化の司令塔を担うデジタル庁が発足した。2020年に特別定額給付金を支給した際の事務の混乱など、コロナ禍で日本政府や自治体のデジタル化の遅れが明らかになり、当時の菅首相が設置を決めたものだ。

2021年10月に就任した岸田首相も、デジタル臨時行政調査会（デジタル臨調）、デジタル田園都市国家構想実現会議という2つの会議体を立ち上げ、行政のデジタル化を強力に推進する姿勢を鮮明にした。デジタル臨調では、まず関係省庁が順守すべき「デジタル原則」を定めた上で、規制や制度、行政の横断的な見直しプランを来春にとりまとめることを目指している。デジタル田園都市国家構想実現会議は、地方のデジタル化を通じて、人口減少・高齢化、産業空洞化など、地域が抱える課題を解決し、地域活性化につなげることを企図している。

目的は住民サービスの向上と行政の効率化

デジタル化はあくまでも手段であり、それを通じてどのような社会を構築するかが重要なことは言うまでもない。2020年12月に閣議決定された『デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針』では、デジタル社会が目指すビジョンを「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」としている。

こうした社会を実現するため、住民サービスの向上と行政の効率化を図っていくことが、行政のデジタル化の直接的な目的である。

住民サービスの向上については、例えば、出生届や婚姻届など、各種手続がオンラインで可能になれば、役所に出向く手間が省ける。また、転居時に一度届出をすれば運転免許証、銀行口座などの登録住所を変えることができるワンストップサービスが実現すれば、手続の煩雑さから解放される。これら各種手続のオンライン化は、必要人員・コストの削減を通じて、行政の効率化にもつながる。

これらを実行に移す上では、国や自治体のシステム

標準化、マイナンバーカードの普及と銀行口座への紐づけなどが前提になる。政府は2025年度までに自治体のシステム標準化を目指しているほか、現状40%程度にとどまっているマイナンバーカードの普及を促進する方針を講じている。岸田政権下の初の経済対策である『コロナ回復・新時代開拓のための経済対策』では、マイナンバーカードの新規取得に5,000円相当、健康保険証としての利用登録者に7,500円相当、公金受取口座の登録者に7,500円相当のマイナポイントを付与する事業が盛り込まれた。

システム標準化、マイナンバーカードの普及と銀行口座への紐づけは、デジタル社会を築いていく上での基盤になるものであり、時間のかかる課題だが、着実に進めていく必要がある。

行政のデジタル化で広がる政策オプション

行政のデジタル化を進めることには、住民サービスの向上と行政の効率化だけでなく、将来の政策オプションを広げるメリットがある。

国や自治体のシステムが標準化され、国民のデータが適切な保護のもとで整備されることにより、政府は家計の所得や資産状況を把握できるようになる。それにより、今回のコロナ禍のような事態に際し、所得支援の対象を収入が減少した世帯などに限定して迅速に給付することが可能になり、政策の効率性が高まる。のみならず、有効な格差是正・低所得者対策の候補として挙げられながら、これまで実務上の困難さから実現しなかった給付付き税額控除（税金から一定額を控除し、控除額が課税額より大きい場合は差額を給付する措置）の導入も容易になるだろう。企業の売上・資産状況などのデータベース化も合わせて進めれば、景気悪化時にダメージを受けた企業に対し、迅速・適切な支援策を講じることも可能になる。

少子高齢化が進む日本では、増えにくくなる税収を効率的に活用する必要性がますます高まる。行政のデジタル化は、将来的にきめ細かい所得分配政策を可能にするインフラとなるものであり、岸田首相が目指す「成長と分配の好循環」には不可欠と言える。

技能者の処遇改善がいよいよ本格化

日経コンストラクション編集長 浅野 祐一

「仕事がつい、給料が安い、職場が危険」。かつて、建設産業は3Kの職場の代表格と言われていた。しかし、建設産業での職場改善は進んでいる。週休2日を実現したり、建設業に従事する人の報酬を高めたりするための取り組みは、着実に広がってきた。

建設産業は、過去に3Kと呼ばれた時代があった。しかし、最近では建設産業における労務環境が改善する傾向にある。

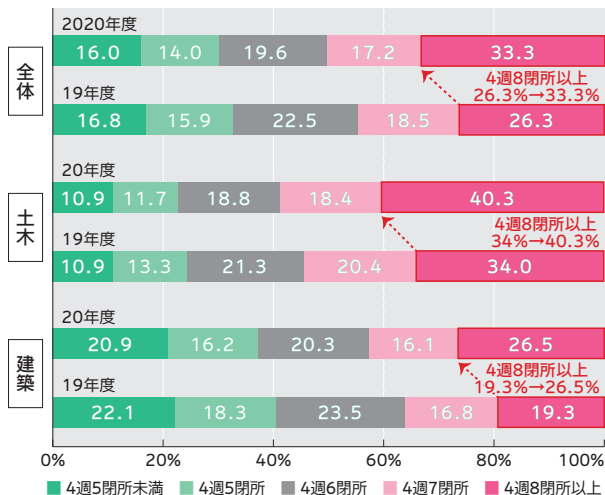
例えば労働時間。建設産業はまだ労働時間が長い業種の1つとなっているものの、週休2日を導入する現場は着実に増えている。日本建設業連合会が会員企業向けに実施した調査では、2020年度に4週8閉所を達成した建設現場は、全体の3分の1にまで増加した。19年度は26.3%にとどまっていたので、この1年で比較的大きく改善した。特に土木工事では4週8閉所以上を実現する現場の割合が高く、40.3%にまで達していた。前年度から6.3ポイント改善した値だ。

2024年4月には、改正労働基準法に基づいて建設業にも時間外労働へ罰則付きの上限規制が適用される。時間外労働は原則として、月45時間以内かつ年間360時間以内となる。時間外労働の削減は、建設会社にとって喫緊の課題になっている。

国土交通省は、2023年度から全ての直轄工事について、発注者指定型の週休2日対象工事として公告する考えだ。

図 全体で3割、土木は4割で4週8閉所

日本建設業連合会が会員企業の現場を調査した結果に基づいて日経コンストラクションが作成。2020年度は1万5922現場、19年度は1万7227現場を調べた



元請けが下請けに褒賞 重層下請けを撲滅する動きも

休日取得を促す取り組みは、民間の建設会社でも始まっている。五洋建設は現場で設定する休日数の目標以上に下請けの会社が休日を取得した場合に、労務費を割り増す制度を19年7月に始めた。

下請けの会社には現場事務所の閉所目標を踏まえて見積もりを出してもらい、その見積もりを超えた日数の休みを取得していれば労務費を割り増す。2020年度には土木と建築を合計して、178社が取り組んだという。このうち、26社に対して工事完了後に、約611万円が支払われた。

建設産業では重層下請けが、たびたび問題となる。下請けの回数が増え過ぎると、元請けの建設会社の管理が行き届かなくなるだけでなく、末端で働く作業員に十分な報酬が行き渡らなくなる。そうした職場には、若い世代も入りたいたとは考えず、事業の継続性も危うくなる。

次世代の担い手をしっかり確保するために、下請けの回数を制限しようとする取り組みが進んでいる。

例えば鹿島は、2023年度までに原則として下請けは2次までとする方針を打ち出している。21年度は既に移行期間に位置付け、取り組みを始めた。

発注者側で取り組む事例もある。京都府や福井県、鳥取県など一部の自治体では、公共工事において下請けの回数を制限するルールを既に設けている。

図 発注者が下請け回数を制限

下請けの回数に制限を設けている自治体の例。国土交通省の資料を基に日経コンストラクションが作成

自治体	導入時期	下請け回数制限	ペナルティー
京都府	2012年	原則として建築一式工事は3次、それ以外は2次まで。制限回数を超える下請け契約を結ぶ場合は理由書を提出	理由書などを提出しない場合は指導する。従わない場合は指名停止などの措置を講じる
福井県	2014年	建築一式工事は3次、それ以外は2次まで(1000万円以下の土木一式工事は1次まで)。制限回数を超える下請け契約を結ぶ場合は制限除外申請が必要	制限回数を超える下請け契約が判明した場合、是正指導を行う。指導に従わない場合は指名停止などの措置を講じる
鳥取県	2015年	建築一式工事など建築・営繕系工事は3次まで、それ以外は2次まで。制限回数を超える下請け契約を結ぶ場合は監督員と協議のうえ認める	制限回数を超える下請け契約が判明した場合、是正指示を行う。指示に従わない場合は入札参加資格の停止を行うことも可能

魅力ある建設業界へ

第8回

若年者の採用と定着率向上に向けて

profile 櫻井 好美
社会保険労務士法人アスミル
特定社会保険労務士



民間企業に7年勤務後、2002年
櫻井社会保険労務士事務所(社会
保険労務士法人 アスミル)を設立。

【主なコンサルティング・セミナー内容】

就業規則・労働環境整備、人事評価制度コンサルティング、賃金制度コンサルティング、退職金コンサルティング、働き方改革セミナー、管理職向け労務管理セミナー、建設業向け社会保険セミナー、介護セミナー、WLBセミナー、女性の働き方セミナー、学生向け働く前に知っておいてほしいこと 等

業務改善～労働時間の削減～

職場環境をかえるために

若年者の採用と定着率の向上には、働きやすい職場環境が必要であることを説明してきました。そして、特に建設業においては他業種より休日数が少ないため、労働時間の削減は必須です。しかしながら、単に「週休2日にしよう」という声かけだけでは、時間数は減りません。労働時間を削減するには、現在の業務の内容や仕事のやり方について、課題を発見し、効率的な仕事環境を作り出す必要があるのです。今まで習慣となってしまう業務がそもそも本当に必要なのか？また効率的なやり方があるのではないか？という業務改善をしていく必要があります。

業務改善の進め方

業務改善を行うには、まず現在の業務の洗い出しが必要です。どの部署がどのような業務をしているか、日々行う業務なのか？月単位なのか？イレギュラーな業務なのか？また他部門との関連はどうか？ということを書き出してみることが大切です。ここで現状把握が出来れば、「ムリ、ムダ、ムラ」を発見することができます。業務の洗い出しから、そもそもその業務が必要なのか？標準化できる業務なのか？または外部化したほうがいいのか？という観点で解決方法を探っていきましょう。

業務改善の視点

廃止	標準化	集約化
必要性を踏まえ業務自体をなくす	やり方が異なる業務の統一	重複実施業務を集約
整流化	平準化	外部化
業務の流れを“フロー”化する	労働力をならしピークをずらす	自然保有の必然性のない業務を外部に移管

業務改善の本来の目的

業務の洗い出しをし、仕事のやり方の見直しや標準化をすることでムダを省き、効率化をすることができます。効率化は労働時間の削減となり、労働環境の改善につながります。効率化したことで本来やるべき業務に集中をすることができ、企業は利益をあげ、給与として従業員に還元することができるのです。

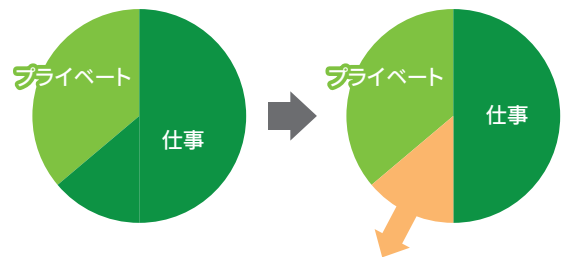
効率化の考え方

STEP1	やらないことを決める	例：会議、探す時間等
STEP2	やらなくてはいけないことを効率化	例：顧客管理、見積書の作成等
STEP3	やるべきことに集中する	例：新規開拓等

ワークライフバランス

従業員側でいえば、残業がなくなることで自分の時間を持てることができます。空いた時間で自分のスキルアップのために勉強をしたり、異業種交流会にでたりするのもいいでしょう。また、建設業の方であれば、多くの美術館をまわったり、古い建物を見学したりすることで新たな発想がでてくるかもしれません。プライベートでインプットしたことを仕事でアウトプットすること、これが本来のワークライフバランスです。

ワークライフバランス



生産性をあげる働き方改革!!

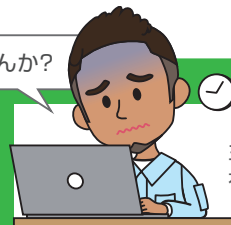
ここがポイントです。

1 本来の目的を忘れない

業務改善の目的は生産性向上です。現状よりも効率よく仕事のできる環境をつくり、やるべきところに集中することです。経費削減が目的ではありませんので、効率化すべきものもそうでないものをわけて考えましょう。

2 業務改善が必要な理由を考えよう

日本は深刻な少子高齢化の状態です。今後もこの状況は変わりません。人手不足への対応のためにも効率化は必須なのです。限られた人数でも業務ができるような対策を考えておきましょう。



主な業務: 建材商社
社員数: 30名

実例

解決へと至った事例をご紹介します



問題点

単に週休2日にすればいいと思っていましたが・・・ デメリットを考えていませんでした。

週休2日にはなりましたが、相変わらず平日の残業時間は減っていきません。「働き方改革だから」といって早く帰る社員もいれば、今までより残業が多くなっている社員もいます。残業時間を減らし、バランスよく仕事をしてもらうのはどうしたらいいのでしょうか？

改善



改善後

残業が多い原因の実態把握!まずは問題点の課題整理から。

残業の根本的な原因を探っていくため、社内にて「残業の多い原因は何か?」というテーマで研修を実施しました。まず社員全員に、付箋1枚に1案件というルールで、残業の多い理由を書いてもらいました。その結果は、会議が長い、18時が終業時間なのに会議のスタート時間が18時になっている、資料作成が多い、ITに弱い人が多いのでスケジュール管理もホワイトボードのみになっている、事務所に帰らないと見積が作れない、先輩が帰れないから帰れない、教えてもらえないので先に進めない等、様々な意見がでました。これらの原因を大きく分けると3つの課題に分けられます。1つ目は仕組みの問題、2つ目は本人の能力・教育の問題、そして3つ目は風土の問題です。3つ目の問題は簡単に変えられることはできませんが、まずは行動を変えることで習慣化し、最終的には意識が変わり風土につながります。そのため、1つ目の課題を整理していくことから始めました。

①会議のやり方の見直し

まずは社内でのどのような会議があるのかという会議の洗い出しをしました。一覧をみると、決まったことの発表の会議が多いことに気づき、そこで会議ルールを決定し、ムダな会議を削減することができました。

ルール

- それぞれの会議の目的とゴールを決める
- 本当に必要な参加者に限定する
- 会議全体の所要時間を決定し、その中でスケジュールを組む
- 必ず時間で終える
- 必ず一人一回は発言する
- 数字の報告だけの会議はやらない

②スケジュールの見える化

社内ではITが苦手な人もいることから、今までITがなかなか進みませんでした。しかしながら、業務の効率化にITの活用は必須です。まずは簡単なスケジュール管理からグループウェアを活用することに決めました。ただ、ホワイトボードがあることで従来のやり方にこだわる人もいることから、ホワイトボードを使える期限を決め、最終的にはグループウェアに完全移行していきました。そして、スケジュール管理が慣れてきたところで、勤怠管理、有給管理、時間外申請も少しずつ移行していきました。

③倉庫の整理整頓

業務の効率化を図るためには、社内でムダだと思う作業を取り除く必要があります。1日の業務の洗い出しをすると、物を探す時間が多いことがわかりました。そのため、倉庫の整理整頓に着手しました。これは単に片付けるということだけでなく、元にもどらないように当番を決め、チェック体制を強化しました。また、在庫がどれくらいになったら発注をしなくてはいけませんか?どれくらいの量を保管しておくか?等倉庫管理のルールを決めました。

④ペーパーレス化

紙の書類が多く、必要な書類を探すことに時間がとられていることが問題となっていました。改善のため、まず書類の保存期限を決めました。その後、原本が必要な書類とPDFで十分なものを区分けし、原本が必要な書類以外はすべてPDF化しました。PDF化した書類をデータとして保存しましたが、全員がルールを守った保存の仕方をしないとまた元に戻ってしまうため「ITパトロール」と名付け、常にフォルダー整理をする係を決めました。

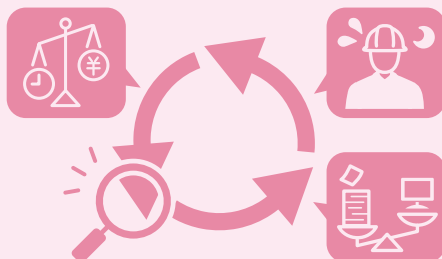


今後の課題

まずは行動変化として、具体的に変えやすいものより手をつけました。時間に関することは、会社の風土を変えていくことです。まずは小さな行動変化の積み重ねから、意識の変化へつなげていくことが大切です。

3 業務改善は永遠に・・・

業務改善は一度きりではありません。時間が経過すればいつの間にか元にもどってしまったら、新たな課題がでてきます。取組が過去のものにならないように、定期的な活動をしていきましょう。



かわい

土木

第42回

大井川の曲流を しのばせる湖上駅

印象的なその景観から、「不思議な駅」「秘境駅」と呼ばれ、人気上昇中の大井川鐵道奥大井湖上駅。この絶景の成り立ちには、大井川の電源開発の歴史が関わっている。ダム建設のための専用鉄道と、太古からの急流の蛇行が作り上げたダイナミックな地形との絶妙なコラボレーション。

奥大井湖上駅
静岡県榛原郡

Photo・Text:フリーライター 三上 美絵

大成建設広報部勤務を経てフリーライターとなる。「日経コンストラクション」(日経BP社)や土木学会誌などの建設系雑誌を中心に記事を執筆。広報研修講師、社内報アワード審査員。著書『土木の広報〜対話』でよみがえる誇りとやりがい〜(日経BP社刊、共著)



湖を一直線に貫くトラス構造の赤い鉄橋。その中間の半島状の山の斜面に、ぽつんと小さな駅がある。大井川鐵道井川線の奥大井湖上駅だ。

かわいい。これほどかわいらしい景観は見たことがない。この連載では、かわいい土木構造物を見つけては「ドボかわいい」と称して愛でてきた。しかし、ここは駅や橋といった構造物単体ではなく、周辺と一体になった景観全体がドボかわいいのだ。

ダム湖に沈みかけた 廃線のトンネルや橋も

「湖上駅」というだけあって、まさに湖のただ中にぽっかり浮かんでいるかのような奥大井湖上駅。もっとも、駅といっても、あるのはトラス橋の一部に見えるホームだけで、駅舎と呼べるものはない。もちろん無人駅だ。

ホームから斜面を少し上ったところに山小屋風のカフェがあるものの、ほかには林の中に遊歩道が続くばかりで、集落の気配はない。人が住んでいないところに、なぜ駅があるのだろうか？

じつはこの駅、観光用につくられた駅だという。

奥大井湖上駅が開業したのは、1990年のこと。国土交通省の長島ダム建設に伴い、井川線の旧路線がダム湖に水没することになり、対岸のより高い位置に線路を付け替えることになった。それが現在、「奥大井レインボーブリッジ」と呼ばれている冒頭のトラス橋を通る線路だ。

そしてこのとき、旧路線側の崖の上から絶景が見渡せることもあって、観光客のための駅が設けられた。実際に、この景観がテレビや雑誌で紹介され、秘境駅の観光スポットとしてじわじわと人気が高まっているらしい。駅のホームからは、対岸の水面

すれすれに、廃線のトンネルや橋も見える。

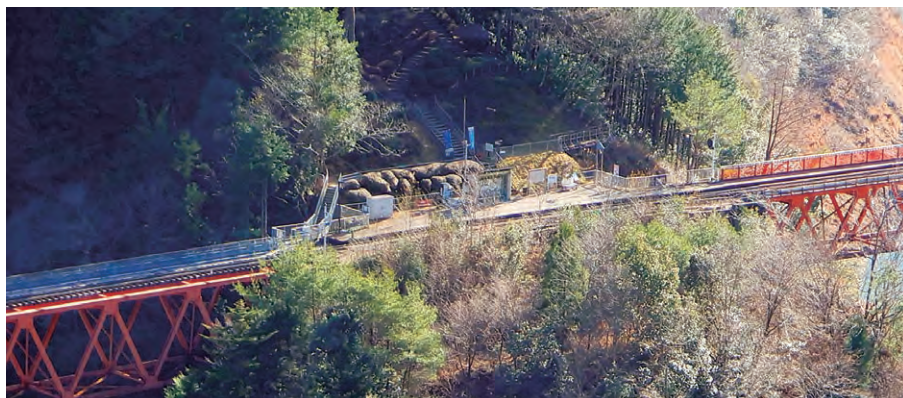
水力発電のダム建設のために 敷設された専用鉄道

井川線の歴史は、静岡県を流れる大井川の開発史と深い関わりがある。大井川は、江戸時代から「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と恐れられた大河。多雨地帯である南アルプスの雨を集めることから、水量が多く流れが急だ。

このため早くから水力発電の適地として注目され、明治後期には電源開発が計画された。この当時の水力発電は、川から直接水を引く「水路式」だった。

昭和初期になると、ダムを築き、貯水した水による「ダム式」の水力発電が本格化する。コンクリートダムを建設するには、骨材やセメント、鉄筋、大型重機など莫大な量の資機材を山中へ運ばなければならない。当時の大井川電力は、資機材を運搬するために、専用鉄道を敷設した。

やがて戦後の高度成長期になると、^{ひっばく}逼迫する電力需給に対応するべく、中部電力はさらに上流に井川ダムの建設を計画。同社は、大井川電力時代の専用鉄道を15km延伸し、工事の効率化を図った。しかし、峡谷を縫うように進むために多くのトンネルや橋が必要になり、ダム建設の準備段階であるこの延伸自体が、大変な難工事だったという。



▲ 橋の真ん中あたりにある奥大井湖上駅。



▲長島ダムのダム湖である「接岨湖」をトラス橋が一文字に横切る。大井川の流が崖を深くえぐってできた穿入蛇行と呼ばれる地形だ。

井川ダムが完成して2年後の1959年、資材運搬の役割を終えた専用鉄道を大井川鐵道が引き継ぎ、旅客営業を開始。これが井川線の始まりとなった。井川線は、井川村の人々にとって貴重な生活の足となるとともに、温泉や景勝地への観光客にも役立った。



▲奥大井湖上駅は、ダム建設に伴う線路の付け替えによって1990年に開設。



▲「南アルプスあぶとライン」の愛称で呼ばれる井川線。

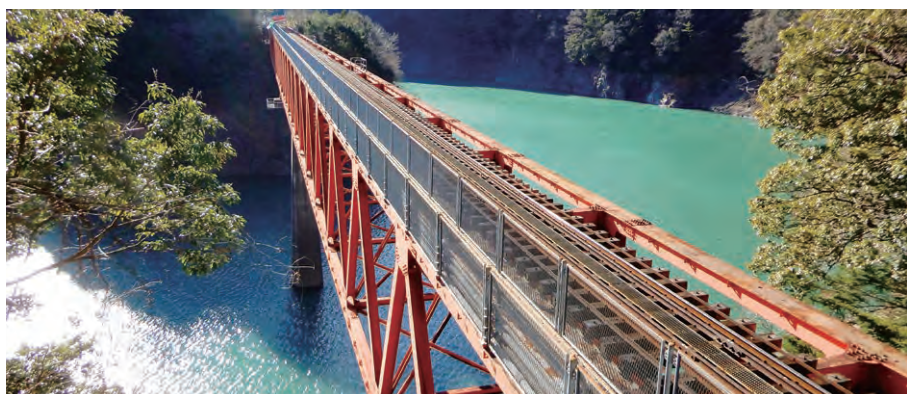
大井川のダイナミックな 曲流がつくり出した景観

一方、流域は長いあいだ洪水に悩まされてきた。そこで国は1972年に、直轄事業としてダムによる洪水調節を行う方針を打ち出し、長島ダムの計画を発表。治水だけでなく、上水道・農業用水・工業用水の利水も行う多目的ダムだ(ただし、発電には使われない)。

井川線の付け替え事業も、水没地域に対する補償工事の一環として、国が行ったものだ。

長島ダムの完成は2001年。奥大井湖上駅の足元に広がる「接岨湖」は、このダムによって生まれたダム湖だ。名称は、以前の地名である「接岨峡」にちなむ。「岨」という漢字は、崖や絶壁を意味する。

大井川は、四国の四方十川と並ぶ曲流河川(曲がりくねって流れる川)でもある。奥大井湖上駅がある半島のように突き出た



▲駅には鉄橋に併設された歩道を渡って出入りする。湖の上を歩いて渡るの最高の気分だ。

部分は、川がU字型に蛇行した内側の頂点だったのだ。

湖上駅とレインボープリッジの織りなすドボかわいい景観を形作ったのは、長い年月をかけて大蛇のようにのたうち、崖を深くえぐった大井川だ。そう知ってから眺めると、メルヘンチックな駅のたたずまいとダイナミックな地形の対比がいつそう鮮やかに胸に迫ってくる。

アクセス

access

大井川鐵道奥大井湖上駅へは、千頭駅から約1時間。駅から展望スポットまでは徒歩で鉄橋を渡り、急坂を登って15分ほど。

令和3年度 連携団体職員合同研修会の開催

本財団では平成27年度より、業務上関係のある建設業団体職員の資質の向上、職員間の交流促進、情報交換や研鑽等を目的として標記研修会を開催しています。

今年度は、令和3年12月3日(金)に対面とWebのハイブリッド方式で開催しました。

感染対策を講じた上でのグループワークなども行われ、コロナ禍で難しかった他団体との交流も深めることができました。



講演1



先進技術を活用した 建設イノベーションについて

前田建設工業(株)
ICI総合センター企画管理センター長
上田 康浩 氏

講演2



建設業の 有効な魅力発信の仕方

(株)メディア戦略 代表取締役
坂本 宗之祐 氏

講義1



建設業の若者定着と 持続可能な経営戦略

アサンテ経営労務事務所 代表
手島 伸夫 氏

講義2



現場代理人の マネジメント理論とOJT実践

ヒロT&T(株) 代表取締役
廣津 栄三郎 氏

参加者皆さんの感想

- 企業における現場ベースでの先進技術活用の様子を知ることができて良かった。
- 現状のDX系の動向を知ることができました。
- 1社だけの知恵や資金だけではイノベーションは起こせない。連携・協力していくことの大切さを感じた、勉強になる講演でした。
- 協会事務局としては、講演2(坂本氏)の魅力発信が非常に参考になった。SNSの活用も今後の課題としたい。
- 情報の発信の仕方として、業務に戻り、すぐ実践に活かせることが出来ると思えた講義でした。
- SNSの特徴やコストを抑えた広報のやり方について学ぶことができた。
- 演習形式で出席者とコミュニケーションをとる機会があった事で、その後の講義への集中力も高まりました。
- 建設産業の技術革新に向けた最新の取組を知ることができた。若者定着や業務を円滑にする、人との接し方や言葉の表現方法などがとてもためになり、活かしていきたい。
- すべての講義が、自分の担当している仕事に直結してくる内容ばかりで大変勉強になった。

建設業経営者研修 (WEB配信・無料)

変化を恐れない！～これからの経営者の在り方とは～

経営者、経営後継者、経営幹部の方を対象とした研修(WEB配信)を開催します。

本年度は中小企業が厳しい時代を生き抜くために、ダイナミックな経営を行っている企業の経営者の方々を講師におむかえします。(順不同)

対談 地域建設業(建築&土木)の新規事業展開 ～人材・技術の活用と地域貢献の観点より～

講師：五十嵐 正信 氏 (株式会社ダイゴ 代表取締役)

講師：五十嵐 幸子 氏 (株式会社ダイゴ 専務取締役)

講師：澤田 兼一郎 氏 (株式会社みどり合同経営 代表取締役・中小企業診断士)



(株)ダイゴさんは地域の困りごとを地域貢献の一環で対応してきたところ、新規事業につながり、事業を拡大させています。事業承継、地域の困りごとも見据えて、縮小均衡ではなく、成長を志向するマインドに起因している経営を常に行っています。今回はその経営手法をご紹介します。(澤田)

対談 変化を前向きにとらえるために必要なこと

講師：石岡 秀貴 氏 (株式会社 石岡組 専務取締役)

講師：櫻井 馨 氏 (伊米ヶ崎建設株式会社 代表取締役社長)



変化は望むと望まざるとにかかわらず身に降り掛かってきます。その際にどう考えて変化と向き合い、より良くなるきっかけにするかはそれこそ経営者次第だと考えています。変化を前向きに捉え、最初の一步を踏み出すきっかけになるような配信になれば良いと思います。受講者皆様の行動を喚起するようなものを届けられたら嬉しく思います。(石岡・櫻井)

対談 製造業から建設業への進出 ～農業の工場生産化への支援企業として～

講師：富田 啓明 氏 (トミタテクノロジー株式会社 代表取締役社長)

講師：藤原 一夫 氏 (藤原コンサルティング 代表・中小企業診断士)



時代の需要に合わせて、本業を製造業から農業施設構築工事業及び農業従事者への農業運営指導企業へと変えた経営者の考え方をご紹介します。建設企業がなかなか踏み出せない海外企業との連携も得意としている企業です。中小建設企業の事業者でも国際的な協業が出来る可能性があることを知っていただければと思います。(藤原)

※ご記入いただきました個人情報は当研修の運営・管理・次回研修の案内に限り利用させていただきます。

配信期間：令和4年2月下旬～7月末まで (予定)

新型コロナウイルス感染状況により、配信の予定が変わる場合があります。

方 法：WEB配信(オンデマンド)上記の期間いつでも自由に視聴できます。

参加費：無料

申込方法：下記URLまたはQRコードからお申し込みください。

<https://www.kensetsu-kikin.or.jp/management/keieishakenshu>



主催・問い合わせ (一財)建設業振興基金 経営基盤整備支援センター 経営改善支援課
TEL:03-5473-4572 FAX:03-5473-4594



技を伝える。想いを受け継ぐ

RELATIONSHIP

確かな技と信頼が重なり、生まれる一枚。 工場から現場を支える 「瓦」づくりのエキスパート。

屋根の寸法・形状にあわせて事前に工場です瓦を裁断し、施工現場へと持ち込む「プレカット」。現場での作業負担や環境負荷の軽減にも寄与するこのプレカット瓦に取り組むのが、株式会社 マツザワ瓦店だ。そのモノづくりの要とも言えるプレカット工場で活躍する3人に話をうかがった。

プレカット工場を取り仕切る工場長・大岩さんは積算業務を担い、ハウスメーカーなどの図面を基に割付図の作成や発注業務をこなすほか、各作業員の割り振りなども行う頼りになるリーダーだ。

大岩さん：瓦は遠目に見ると均一な様にも見えますが、屋根材により一枚一枚に微妙な差異があります。また建物ごとの屋根の寸法・形状や勾配などにより、お客さまから求められる瓦も様々。私たちの仕事は、そうした異なる屋根材・異なる要望に的確に応える正確な瓦づくりです。

そんな大岩さんの下で瓦づくりに邁進するのは、プレカットオペレーターの山口さんと川瀬さん。屋根材となる一枚の板から正確に裁断し、美しい瓦を生み出していく様子は見事というほかない。

山口さん：カットをする際に特に気をつけているのは力加減です。屋根材は種類も様々ですが、むやみに力をかけると割れてしまうため、いかに適切な力加減で裁断するかが重要。また屋根材を無駄なく効率よく利用するためには、裁断前の配置なども大切です。現場により納める瓦も異なるので、常に図面を確認することを心がけています。

川瀬さん：私はコンクリート素材の瓦の裁断などを担当しています。切断面がきれいに仕上がっていない場合には、現場の職人さんから「もっときれいに仕上げてください」と声が挙がることもあるので、慣れていても油断せず、一枚一枚丁寧に手掛けていくことに気を配っています。

経験を積んでもなお真摯に仕事に向き合う二人に、大岩さんも大きな信頼と期待を寄せる。

大岩さん：裁断に用いるダイヤモンドカッターなどの機械も、使い方や力加減によって見えない部分に劣化が生じるもの。山口や川瀬のように裁断に慣れた人間でなければ、機械もすぐに傷んでしまい、質の良い瓦を生み出すことができません。そうした意味でも、経験豊富な二人の存在はありがたいですね。

工場勤務が主となる山口さんと川瀬さん。この仕事は、建設現場とは異なる醍醐味があるという。



おおいわ たかゆき
大岩 隆幸さん
1967年5月生まれ
愛知県出身



やまぐち よしお
山口 佳久さん
1968年5月生まれ
愛知県出身



かわせ ゆうき
川瀬 裕基さん
1990年4月生まれ
愛知県出身

山口さん：裁断・梱包し、仕上げた瓦が現場へ運ばれていくのを見ると、「やりきった」という達成感を覚えます。また瓦の取り付け作業は天候に左右されるところが大きく、工場から現場への納期が早まるケースもあります。そうした時はなおさら、納品に至るとホッとしますね(笑)

川瀬さん：工場へ直接受け取りに来られる方もいるので、自分たちの作った瓦が無事にお客さまに渡る瞬間を目にすることができます。納品できたことを実感すると、やはりうれしいですね。

その一方で、瓦の取り付け作業にも足を運び、いわば現場の職人と工場の職人とをつなぐ役割を担っている大岩さん。工場でひたむきに取り組む2人を見る眼差しも温かい。

大岩さん：うれしいのは、山口や川瀬たちが作ってくれた瓦を、現場の方が喜んでくれる時ですね。「あのカット、ぴったり現場に合ったよ」「作業がとて楽になったよ」といった声を職人さんたちが掛けてくれる瞬間は、こちらの喜びもひとしおです。

障がい者就労受け入れや環境対策など、地域・社会貢献にもいち早く取り組んできたマツザワ瓦店。その大きな原動力である3人に、今後の抱負・展望をたずねた。

大岩さん：今まで以上の仕事をしていくと同時に、積算や工場を任せる後継者の育成も図っていきたいです。コロナ禍で閉じていた海外とのやり取りも、今後は広げていきたいですね。

山口さん：いかに正確に、いかに素早く、効率よく仕事をしていくかを常に課題に置いています。怪我をせず、より良い形で仕事をしていきたいです。

川瀬さん：今は一日かけてやっている仕事を、半日でできるように(笑)それくらいの意気込みを持って、作業効率の改善・スピードアップを図ってきたいです。

真摯な姿勢と温かな雰囲気とが溶け合う工場。ここから、人びとの暮らしを守る確かな瓦が生まれ続けている。